

みずほCustomer Desk Report 2016/06/14号(As of 2016/06/13)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	106.51	1.1239	119.70	0.9644	1.4191	0.7374
SYD-NY High	106.95	1.1303	120.32	0.9678	1.4330	0.7411
SYD-NY Low	105.74	1.1233	119.01	0.9630	1.4117	0.7359
NY 5:00 PM	106.25	1.1295	120.02	0.9646	1.4270	0.7388
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)	13.81/14.415		Δ25RR	2.365	Yen Call Over	

	日本2年債	日本10年債	米国2年債	米国5年債	米国10年債	独10年債	英10年債	豪10年債
債券市場	-0.2650	-0.1570	0.7143	1.1266	1.6096	0.0240	1.2090	2.1020
	0.4bp	▲1.7bp	▲1.2bp	▲4.1bp	▲3.1bp	0.4bp	▲2.3bp	-

	USD/CNH	ドルインデックス
為替市況	6.5972	94.41
	▲0.0072	▲0.16

	CRB指数	NY金	WTI	Dubai Spot
商品市況	192.899	1,286.900	48.880	45.83
	0.01	11.00	▲0.19	▲0.95

【昨日の指標等】

Date	Time	中	Event	結果	予想
6月13日	11:00	中	鉱工業生産(前年比)	5月 6.0%	6.0%
	11:00	中	小売売上高(前年比)	5月 10.0%	10.1%
	11:00	中	固定資産投資(年初来/前年比)	5月 9.6%	10.5%

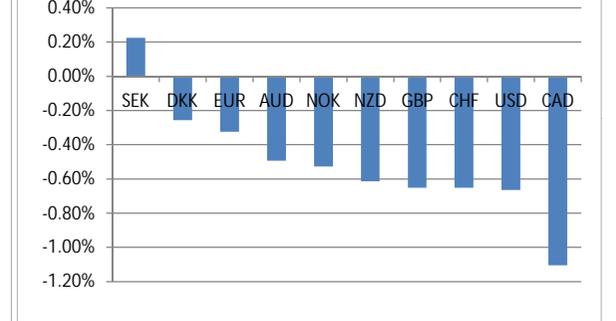
【本日の予定】

Date	Time	日	Event	予想	前回
6月14日	13:30	日	鉱工業生産(確報、前月比/前年比)	4月 -/-	0.3%/-3.5%
	17:30	英	CPI(前月比/前年比)	5月 0.3%/0.4%	0.1%/0.3%
	18:00	欧	鉱工業生産(前月比/前年比)	4月 0.8%/1.4%	-0.8%/0.2%
	21:30	米	輸入物価指数(前月比/前年比)	5月 0.7%/-5.9%	0.3%/-5.7%
	21:30	米	小売売上高(速報、前月比)	5月 0.3%	1.3%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	東京時間のドル円は106.51レベルでオープン。日経平均株価が前営業日比マイナスで寄り付き下落幅を拡大させるとドル円も106円台前半まで連れ安となった。中国5月固定資産投資(年初来/前年比)は9.6%と市場予想(同:10.5%)を下回ったが、中国5月鉱工業生産/小売売上高(前年比)が概ね市場予想通りの結果となり市場の反応は限定的となった。その後は英国のEU離脱を問う国民投票結果への警戒感等からリスク回避の動きが強まり、ユーロ円、ポンド円を中心にクロス円が売られる展開となるとドル円も連れ安となり106円ちょうどを割って下落した。一時105.74まで下落した後、105.92レベルで海外へ渡った。ユーロ円は東京時間119.70レベルでオープンした後、軟調推移となった。一時2013年4月以来の安値となる119.01まで下落し119.25レベルで海外へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、105.92レベルでオープン。日米金融政策発表を前に、積極的にポジションを形成しづらく、106円ちょうど付近での小動きが続く。結局106.10レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.1260レベルでオープン。ECB理事会メンバーのバトマン連銀総裁が、ECBの緩和的な政策は適切で、効果を見極める必要があると指摘し、追加緩和に否定的な考えを示したことで、ユーロ買いが優勢。1.1278まで上昇後、1.1270レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.4208レベルでオープン。調査会社によって数字は異なるものの、大半の世論調査が英EU離脱派優勢を伝える中、英ブックメーカーの英EU残留確率が64%と先週から14%低下。英EU離脱への警戒感が強まったことで、ポンドドルは1.4117まで売られる。その後は、ロンドン時間12:30に発表されるICM世論調査を前に、調整的な買いが入り、1.4195まで上昇。結局、ICM世論調査は、アクセス集中で同ホームページがクラッシュしたことから発表が遅れ、ポンドドルはその間身動きとれず、1.4177レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 山本)
ニューヨーク	週明けNYのドル円相場は106.10レベルでオープン。英国国民投票に対する警戒感から市場全体にリスク回避の雰囲気が強かったが、下げ基調だった原油や原油が下げ渋りを見せたことでドル円も下げを一般し一時106.58まで上昇。しかし、中盤にさしかかり、ダウはプラス圏を維持できず売り優勢となると、ドル円は再び下値を模索する動きとなり106.03まで軟化した。その後は米FOMCや日銀決定会合など週内の重要イベントが控えていることもあり動きづらく、ドル円は106円台前半で小動きが続き106.25レベルで海外市場へ渡った。一方、ユーロドルは1.1270レベルでNYオープン。英国国民投票への警戒感からユーロの下値を模索する動きが優勢で、ユーロドルは一時1.1238まで下落したものの、その後は下げ渋り1.1303まで買い戻された。その後、1.1300付近では相応の戻り売り圧力があり、1.12台後半へ押されるが、明日からの米FOMCを控え積極的な取引は控えられ1.1295レベルで海外市場へ渡った。

【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	105.00-106.50	1.1230-1.1350	119.00-120.00

【マーケットインプレッション】

前日の海外市場ドル円相場は、英国のEU離脱をかけた国民投票をめぐる神経質な展開が継続する中、106円を中心に荒い値動きに。東京市場のドル円相場は、英国のEU離脱懸念や、米国でのテロ事件発生を受け、リスクセンチメントが後退する中、日経平均の大幅下落と共に105円台まで円高が進行。海外時間に入ると、英国国民投票に係る一部世論調査にて残留支持が優勢と報じられると、欧米株の反発と共にドル円相場も106円台半ばまで値を戻す場面も見られたが、欧米株式市場が再び軟化するとドル円相場も106円近辺まで反落。本日のドル円相場は、上値の重い展開を予想。今週予定される米FOMC及び日銀金融政策決定会合は据置きがマーケットコンセンサスとなっており、市場の注目は英国の国民投票に。英国の国民投票結果に予断を許さない状況が続く中、リスクセンチメントの後退からドル円も上値の重さが意識されよう。(伊藤貴)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。